

グローバル・アピール

世界に訴える「ハンセン病と差別」について

ハンセン病は、歴史上最も古く、最も恐ろしい病気の一つとして知られてきました。長い間、有効な治療方法もなく、恐ろしい障害を身体にもたらす感染症とされてきました。患者は社会から隔離され、放逐され、差別を受けながら生きることを強いられてきたのです。

1980年代に、多剤併用療法(MDT)という効果的な治療が可能となり、現在までに世界中で1400万人以上の患者が治癒しました。そもそもハンセン病は感染力が極めて弱い病気であり、万一感染しても、早期に治療を受ければ、障害が起こることもなく、6ヶ月から12ヶ月で医学的には病気が治ります。

しかし、ハンセン病に対する恐れは、私たちの心に今もなお根深く存在しています。ハンセン病は、「容易に感染する病気」である、「不治の病」である、「遺伝病」である、「天罰」である、といった誤った認識がいまだ消えずに残っています。

そして、このような無知と誤解がもたらした偏見と差別的態度は、あたかも慣習か伝統のように私たちの心の中にあります。

その結果、ハンセン病患者、回復者、そしてその家族までもが、教育、就職、結婚の機会を制限され、自由に公共機関を利用できないといった社会的烙印(スティグマ)と差別の対象となっています。

患者、回復者、その家族は、新たな差別を招くと考え、長い間沈黙してきました。そして、沈黙は、差別をさらに根強いものにしてきました。

世界はあまりにも長い間彼らの苦しみに対して無関心でした。

世界人権宣言は、その第一条に、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」と謳っています。しかし、この条文は、不当な差別に苦しみ続けるハンセン病患者、回復者、その家族にとって、何の意味も持ちえません。

私たちは、ここに訴えます。国連人権委員会が、この問題を審議し、各国政府にハンセン病患者、回復者、そしてその家族に対するあらゆる差別を取り除くことを促す基本原則とガイドラインを作成し、公布することを。

私たちは、ここに訴えます。すべての政府が、この問題に真剣に取り組み、現状の改善のために必要な行動を速やかにとることを。

私たちは、世界中の皆さんに訴えます。ハンセン病の患者、回復者、そしてその家族が普通の生活を送ることができるスティグマと差別のない環境を育むことを。そして、そのために皆さんひとりひとりの認識を変えていただくことを。

2006年1月29日

オスカー・アリアス
元コスタリカ共和国大統領
ノーベル平和賞受賞者

ジミー・カーター
元アメリカ合衆国大統領
ノーベル平和賞受賞者

ダライ・ラマ
ノーベル平和賞受賞者

ハッサン・ビン・タラル
ヨルダン・ハシェミット王国王子

ヴァーツラフ・ハヴェル
前チェコ共和国大統領

ルイス・イナシオ・
ルラ・ダ・シルヴァ
ブラジル連邦共和国大統領

オルセグン・オバサンジョ
ナイジェリア連邦共和国大統領

メアリー・ロビンソン
前アイルランド大統領
元国連人権高等弁務官

笹川陽平
日本財団会長

デズモンド・ツツ
ノーベル平和賞受賞者

R. ヴェンカタラーマン
元インド大統領

エリー・ウィーゼル
ノーベル平和賞受賞者